



子育てしづらい時代を共に乗り越える

仲嶺 真弓

毎月、つばさっ子“おやおやルーム”の記事をととても楽しみに拝見しています。企画・構成すべて保護者発信のこのページが、職員目線にはない、保護者の目線からの内容に、気付かせてもらうことも多いです。今月号も、4月からの法改正（詳しくは“おやおやルーム”ページをご覧ください）により、子育て世代の保護者にとっては、日々の生活に何か大きな問題を投げかけられたようで、子育てしづらくなっていくのではないだろうか…と危惧する点もあったので、このテーマを取り上げてもらえたことはありがたいことでした。子どもは親の所有物ではないし、子育ては“人”相手だから一筋縄ではいかない。一人間として育てていく子ども自身の葛藤と、それに関わる大人の私たち自身の葛藤が混ざり合う日々の生活。その葛藤の狭間で大人の私たちが気持ちをどう切り替えられるかで、ずいぶん子育て状況も違ってくるのではないかと思います。子育てについての考え方、気持ちの切り替え方は人それぞれ。自分にあう方法を見つけられるよういろんな意見を聞きながら、今しかない就学前の子育て（いずれ子どもは親から巣立ちます）を共に乗り越えていきたいと願います。だからこそ保育園にできることは何かを考えたい。そのために日々の送迎での何気ない会話や日報のやり取り、懇談会や保育園行事があるのです。些細なことでもいいです。どうか、一人で抱え込まずにいてほしいです。

先日のそう組懇談会では、現役の小学校の先生を招いての懇談会をしました。毎年就学前に企画するのですが、今回来ていただいたのはアトム保護者OGの宮崎さんでした。勤務地は熊取町内ではないけれど、小学校での生活や、先生がどんなことに重きをおいて子どもたちをみているのかということや、実際にあった出来事を聞くことができ、小学1年生の生活について少しの見通しをもつことができ、懇談会終了後も、参加した保護者がすぐに席を立たずに話していたことが印象的でした。宮崎さんから感想をいただきました。ここにも一人、子育ての応援団が居ることに感謝します。ありがとうございました。

「いつか返せたら・・・」

宮崎 弥生

私は、現在小学校教員で、高校生の子ども2人がアトム卒園児、アトムとつばさの日報の表紙の絵を描いた人です。先日、そうぐみの保護者懇談会に出席しました。小学校入学に向け、学校での生活・学童の様子について、及び保護者からの質問に答えてくれる人を探しているという話を聞いたからです。自身の一年生担任経験及びわが子の育児経験が誰かの役に立つのであればと思い、お引き受けさせていただきました。

その背景には、アトム在籍時代、たくさんの周囲の方に助けてもらった自身の経験があります。

当時病児保育をやっている施設もない時代。職場復帰してすぐ、下の子が発熱。休めない、預け先がない、困った、どうしよう。そのころアトムの所長代理だったおっちゃん（現アトム法人理事長）に相談、引き受けてくれたのは、顔も見たことのない育児休業中の先輩保護者でした。「自分もかつて、アトムの保育士や周りの保護者に助けてもらって乗り切った。何かの形でお返しできたらと思って。」と言いながら、晩ごはんの一品にと炊き込みご飯まで下さいました。以前の私は、人として世話になったら倍返してその人にお礼をせねばという価値観を持っていたのですが、その人は「そんなんいらん！いつか、自分ができると、誰かに返してあげて。」と笑っていました。その日の炊き込みご飯は涙でしょっぱい味がしたのを覚えています。

私は結局小学校でPTAの役員をしたことも、誰かの子どもを預かったこともありません。でも今、教師として、思い悩む保護者と毎日いろいろな話をしています。そんな未来がくるとは、当時思い描きもしていませんでした。

心の片隅に、あの懇談会に出席された保護者の中にも「いつか返せたら…」と思ってくれる人が一人でもいてくれたらいいな。そんな願いを込めて、つばさっ子をかかせていただきました。